

沖縄市

# 沖縄アリーナ

2019



# 沖縄アリーナ（基本構想）

## メインコンセプト及び基本方針

### < メインコンセプト >

「未来を創り、地域を活性化するアリーナ」  
～夢を与え、感動を与え、未来を創っていく～

### < 基本方針 >

- ①バスケットボールを中心としたスポーツ興行を開催する  
「観せる」施設
- ②各種コンサート、コンベンション等を開催する  
「使いやすい」施設
- ③観客満足度を高め、より多くの事業主体に利用される  
1万人規模の施設

# 沖縄アリーナ（基本構想図）



# スタジアム・アリーナ改革指針

## ① スタジアム・アリーナに関するガイドラインの策定

スポーツ観戦の場となる競技場や体育館等について、観客にとって何度も来たくなるような魅力的で収益性を有する施設（スタジアム・アリーナ）への転換を図るため、施設の立地・アクセス、規模、付帯施設、サービス等、整備や運用に関するガイドラインを、本年度中に取りまとめる。また、ガイドラインの作成と具体的な施設の整備・運営に官民共同で取り組むべく、官民連携協議会（仮称）を早期に立ち上げる。

## ② 「スマート・ベニュー」の考え方を取り入れた多機能型施設の先進事例の形成支援

単機能型のスポーツ施設ではなく、公共施設や商業施設などとの複合的な機能を組み合わせるなど、周辺のエリアマネジメントを含めた、サステイナブルな交流施設としてのスポーツ施設（いわゆる「スマート・ベニュー」）について、国内外の先進事例も参考に、こうした考え方に基づく施設の設置に取り組む地方公共団体に対する専門家派遣などの国の支援措置を速やかに検討し、その具体化を図る。その際、PPP／PFIの活用について、優良事例の横展開を図るとともに、公共施設等運営権方式を含め、多機能型施設の先進事例の形成に向けノウハウの提供等の支援を実施する。

# 沖縄アリーナ（全体計画）



# 沖縄アリーナ（全体計画）



# 沖縄アリーナ（全体計画）



# 沖縄アリーナ（全体計画）





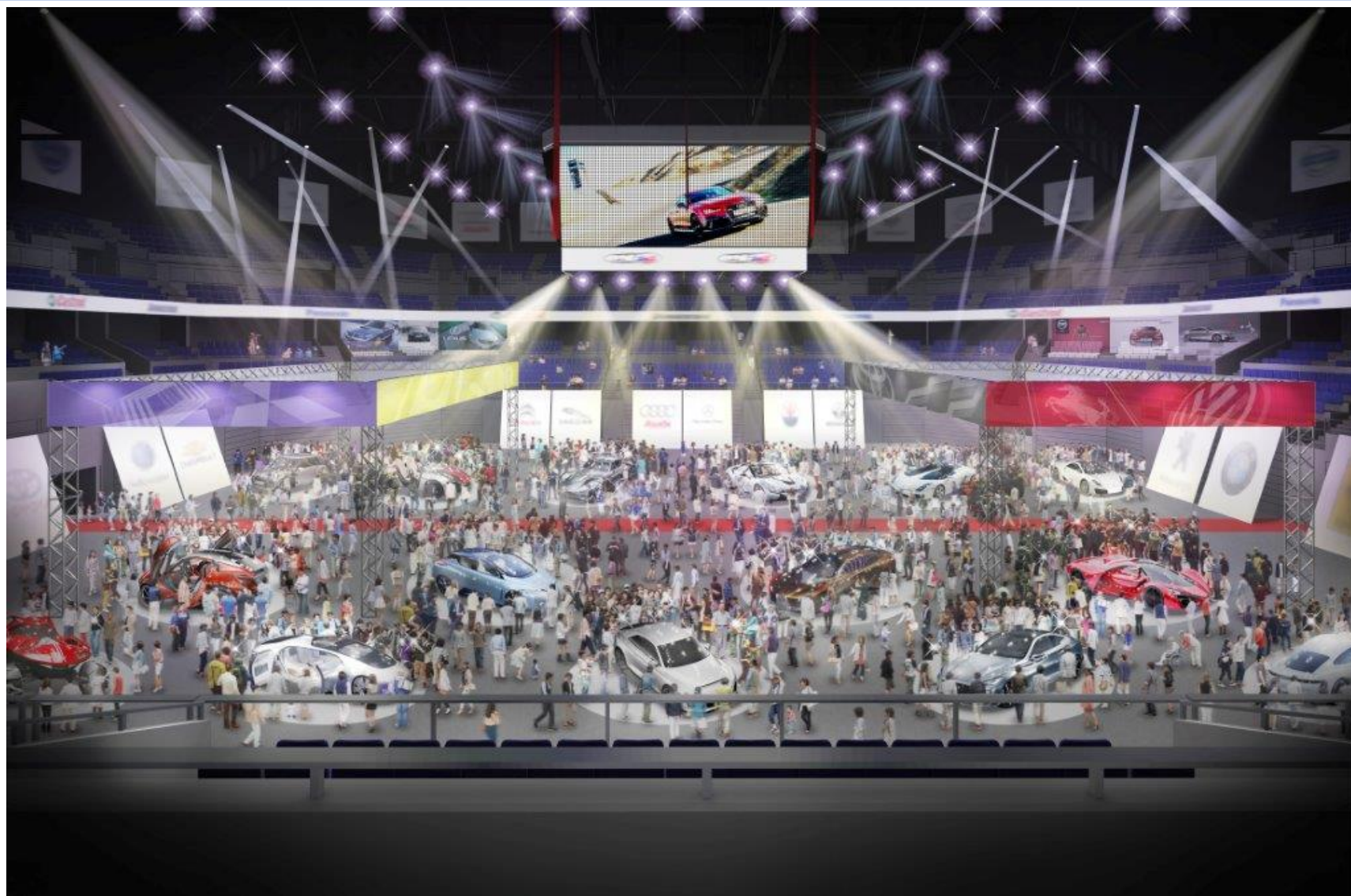
# 沖縄アリーナ（全体計画）



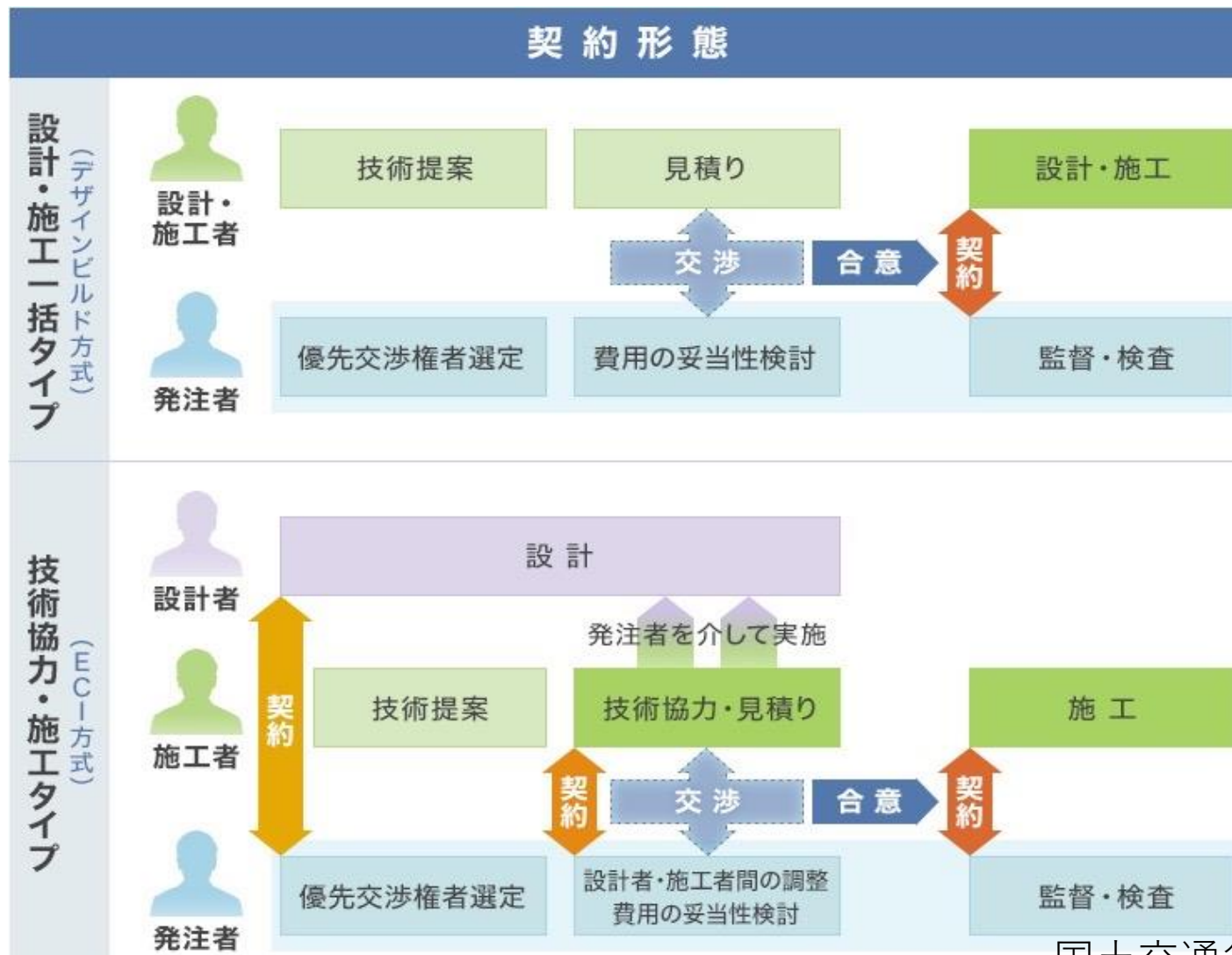
# 沖縄アリーナ（全体計画）



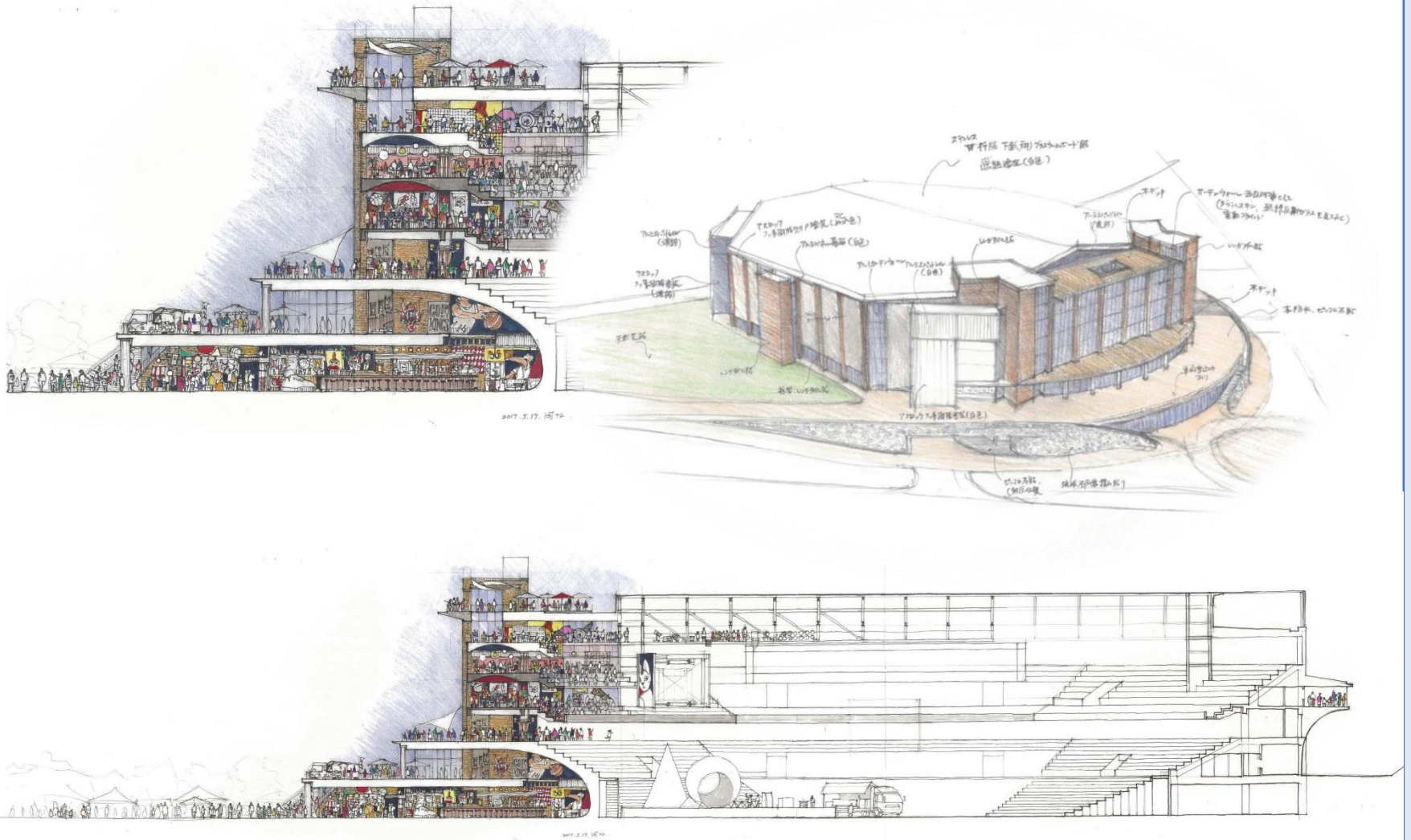
# 沖縄アリーナ（全体計画）



# 沖縄アーリーナ（ECI方式）



# 沖縄アリーナ（施工予定者提案）



# 沖縄アリーナ（実施設計）



# 沖縄アリーナ（実施設計）



平成30年1月

# 沖縄アリーナ（実施設計）





# 沖縄アリーナ（実施設計）



# 沖縄アリーナ（実施設計）



# 沖縄アリーナ（実施設計）



# FIBAバスケットボールワールドカップ 2023

## 世界バスケ 2023年沖縄市開催



2023年バスケットボールW杯の会場となる沖縄市に建設予定のアリーナ内観イメージ図

# 躍動、興奮間近に

2023年に開催されるFIBA(国際バスケットボール連盟)バスケットボールワールドカップ1次予選ラウンドの沖縄市開催が決定した。世界トップレベルの選手たちが沖縄に集い、異次元のプレーを目撃できるとあって、県内のバスケット関係者は喜びに沸いている。琉球ゴールデンキングスが国内プロの「Bリーグ」を

躍を続け、沖縄のバスケット熱は高まり続ける。そんな中で飛び込んだビッグニュースは、次を担う選手たちの夢を広げる。世界大会は県外、国外からの集客が期待される。世界に輝き地「OKINAWA」を発信する機会にもなる。関係者は世界一を争う国際大会を心待ちにしている。



沖縄市に完成予定の多目的アリーナの外觀イメージ図

国際基準の設備充実  
アリーナ20年度供用

## 32チーム頂点競

FIBA(国際バスケットボール連盟)バスケットボールワールドカップW杯は4年に1度、夏季五輪の合間に開催される。各大陸予選を勝ち抜いた上位チームが出場し、世界の座を懸つて1990年フエフエア・イステルセンで第9回大会が行われた。2014年大会はスペインであり、米国がゼルビアを破り下し優勝した。2023年は9月5日予定されている大会は、フイニン(マニラ)、インドネシア(ジャカルタ)、日本の3カ国で予定されている。

## 日本開催、06年以來

W杯が行われ、決勝ラウンドはフイニンで行われ、W杯が複数開催開かれるのは初めてで、日本開催は06年大会以来、06年は日本独自開催で会場は複数会場にまたがった。今回国内の会場は沖縄市のみバスケット熱だけでなく、文化や自然の豊かさ、ホスピタリティなども選定理由になったという。23年の大会は32カ国が出場し、4大陸(各8カ国)に分かれ予選ラウンドを行う。そのうちのグループが沖縄市で予選を行う予定。

## 人生転機の大会に 岸本選手

キウンス・岸本選手「もっと元気を」を世界に向け、沖縄開催は嬉しい。キープで発揮できるいい機会に、キウンスのテーマの沖縄を、なると思っています。子どもたちにもいい機会になり、自分にとっても人生のターニングポイントとなるような大会にしたいと思います。

## 代表に選ばれた 津山選手

キウンス・津山選手「チャンスがあるのはいい開催うれしく沖縄で、経験になる。2023年世界へのバスケットを主眼点もつて競技の人も出ていこうと思つています。自分日本代表に選ばれて、沖縄の人たちが見に来て、楽しんでくれるようになりたいです。」

夫長 桑江朝千  
市長 沖繩



「世界に輝き地」を掲げる桑江朝千市長

## 県民の自信につながる

「開催決定は沖縄そのものが、沖縄市の桑江朝千市長、世界に輝き地を掲げた結果だ。私も子どもたちの夢の広がり、言え、県民の自信につながる。その経済波及効果も、巨額。その感動に勝るものは、沖縄の熱狂を想像する情も和らぐ、約1年にむかひつた。昨年10月、FIBAの職員に対するプレゼンテーションでは、1万人規模の多巨一や観光地、沖縄の歴史

## つながりより強固に

日越延利さん(県バスケットボール協会専務理事) 子どもたちに世界のトッププレーヤーの試合を見てもらえる。夢のようだ。大会実現に向けて、指導者や選手からも助けて



# アリーナ専門誌



安室奈美恵 [Finally]  
発売2ヶ月で200万枚突破

18年1月クール「ドラマ期待度調査」

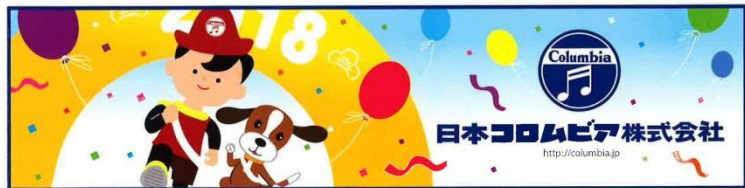
NEW YEAR SPECIAL ISSUE  
Part.2  
Part.1

ライブ・エンタテインメントが地方を活性化する  
with ACPGJ  
ORICON LIVE STUDY  
Vol.7

Leader's Message  
各社代表からの2018年新春メッセージ  
コンサート・プロモーター、舞台設営、チケット関連会社  
グッズ・チケット・会場をリサーチ  
2017年音楽ライブの満足度



COVER STORY  
1万人規模のアリーナ建設で、  
“基地の街”の活性化に挑む  
桑江朝千夫氏  
(沖縄市長)



## Cover Story

### 》桑江朝千夫氏

沖縄市長

沖繩市は北谷町、嘉手納町とともに、アメリカ軍嘉手納空軍基地を抱える“基地文化の街”だ。沖繩、日本、アメリカそれぞれの文化をチャレンジャーした個性豊かなこの街が、今スポーツとエンタテインメント両業界で、大きな注目を集めている。それが、1万人規模の多目的アリーナ・沖繩アリーナの建設だ。早くも「日本一の施設」との期待が膨らむ間施設建設をリードする桑江市長に、建設の経緯や今後への期待を聞いた。

この計画を選挙公約に入れていたわけですね。  
桑江 14年の市長選挙に立候補することを決めたのが、公約2ヶ月前の2月でしたが、その公約づくりのなかで沖繩市に1万人規模の施設を作りたいという構想をまとめました。当選できたのは、そのアリーナ建設や日本一のユニークな動物園を作るという計画、さらにサーキット建設のプランなどが評価されたのだと思っています。  
—なかでもアリーナ建設は、「沖繩市再生の第一歩」だと位置付けていたようですが、そこには市長のどんな狙いがあったのでしょうか。  
桑江 観光客です。沖繩市には神社仏閣も城郭もないので、観光客を引き入れるためには仕掛けていかなければなりません。1万人規模のアリーナなら滞在型観光も夢ではない。そういう発想です。  
—しかし人口14万の市に対して、今回のアリーナ建設の予算は負担が大ききようにも思います。かなり思

い切った決断ですね。  
桑江 とにかくアクションを起こさなければ、ということですね。沖繩県に800万から1000万人の観光客が来るとしても、沖繩市は素通りされてしまう怖さがある。その一方で、基地を抱えている街なので政府の予算が付けられる。大きな構想を描き、政府の力を借りようと思いました。プランは14年（平成26年度）から練り始め、16年6月に全体計画ができたのですが、実はその計画を作成中に、国が「日本再興戦略2016」で「スポーツ・文化の成長産業化」というテーマを打ち出し、そのなかに「スタジアム・アリーナ改革事業」というのを入ってきたんです。それを見て私は喜びましたね。我々の計画を見て、この計画を作ったんじゃないかと思ったり（笑）。  
—今回の計画は、それぐらい前倒しかつ抜群のタイミングだった。  
桑江 浦添市や那覇市、その他の自治体にも、3000～5000人規模の施設を作りたいという話がありました

文/植業室案（編集部） 写真/片山洋樹

18 ● 2018.1.15 CONFIDENCE